

それぞれのペースで、それぞれの路を。

企業体でも行政機関でもない、自由な発想で活動ができるNPOは、社会的期待も高く、注目されています。今、ボランティアや地域づくり活動をしている人々の中にも、活動のひろがりや組織の発展のため「法人化したほうがいいの？」といった岐路に立つ団体も多いのでは。でも、社会貢献の手段、自分さかしの場ひとつのライフワークとして、NPO活動に取り組み理由やそのスタイルは、実にさまざまなのです。そこで、NPO法人化した団体、しない団体、2つのケースを取り上げてみました。

法人化した団体

特定非営利活動法人
うれし野こと図書館

本の世界の楽しさ、大切さを多くの人に知ってもらいたいという気持ちや、自分たちの活動がボランティアの域を越え行政の仕事内容にまで及んだこともあり、法人化を決定した「うれし野こと図書館」。25年以上前から子供図書館の開室やストーリーテリングなどを行っているが、法人化したことで応募できる助成先も増え支援を受けやすくなり、仕事もやりやすくなったという。しかしそれに伴って仕事量は確実に増え、社会的責任も感じはじめてきているという。一面もある。「うれし野こと図書館」では「決算も含め慣れない仕事もあり大変な部分もあるが、法人化したことに振り回されず原点を見失わないようにしていきたい」と話している。

NPO法人化・する?しない?

NPOって?

NPOとは、民間の非営利組織を意味する。自発的に主体的に、社会のさまざまな問題に取り組み、企業や行政にはできない社会サービスを提供する団体を総称してNPOという。民間の立場で活動する非営利組織であれば、法人かどうかに関わらずNPOといえる。また、ボランティアは個人の活動、NPOは組織的活動であり、それぞれ形態が異なる。平成10年に「特定非営利活動促進法」が施行され、この法律に基づいて法人化されたNPOを、特定非営利活動法人（NPO法人）という。
*NPO=(英語のNon-Profit Organization)の略

法人化しない団体

地域づくり団体
矢巾さんさ塾

平成6年から農業体験学習や農業生産者と消費者の交流などの活動を続けている「矢巾さんさ塾」は、あえて法人化を選ばなかった団体のひとつ。イベントなどで関わる人々やスポンサーの地元企業、行政との信頼関係も強いので、今までの活動形態を要する必要性がないと判断した結果だ。また、地域づくり活動をしている他団体との交流も多く、その時々での柔軟性を求められる部分が多いので、法人化することによって自由がきかなくなり、現状の活動に支障が出るのではと考えた。まさに、自分たちのペースで伸び伸びと活動している良い例のひとつと言える。

いずれもNPO法人として、

地域づくり団体として、

進む方向が見えているかどうかが、

活動のスタイルがはっきりしています。

では、実際に、どんなステップで、

どんなタイミングで活動のスタイルを

つくりあげていったのか?

いへんかの現場をのぞいてみましょう。

